

## 地域生活交通に係る調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和7年3月4日(火) 第3委員会室
2. 出席委員 宇江田豊彦委員長 前田智永副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 五島誠 國利知史  
林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 植木佳那子議会事務局主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 なし
8. 会議に付した事件

- 1 調査報告書について

午後2時23分 開 議

○宇江田豊彦委員長 ただいまから地域生活交通に係る調査特別委員会を開催いたします。本日、いつものように録音、録画、傍聴、全て許可しております。

- 1 調査報告書について

○宇江田豊彦委員長 それでは早速協議に入ります。最終報告書について、もう既に皆さんにお配りしておりますが、前回、はじめにについては全文明らかにしておりましたので、ここは省略させていただきます。次に、調査の趣旨ということで、口頭では申しましたが文書にしたのは見ていただいております。今回の調査趣旨は次の背景を踏まえ、現状、課題及び展望を明らかにしようとするものということで、4つの視点で調査をするということでまとめさせていただきました。この点についてはどうでしょうか。よろしいですか。これも意味はほぼ伝えさせていただいて、文書をきょう初めて見ていただいたので、それでよろしいようでしたら、このような形にさせていただきたいと思っております。ここからが、とりわけ皆さんに御相談をしたいところです。調査結果について、皆さんが挙げていただいた調査報告書に基づいて調査のまとめをしております。まず、通学に特化したJR芸備線についての調査です。出していただいた報告書の文章を多少直したところもあるのですが、こういう形で上げております。その辺について、具体的に調査を担当された方で何か御意見があればお伺いしておきたいと思っております。別にないですか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長 それでは、(2)－1ですけれども、5ページ、タクシー事業者からの聞き取りです。3社、2社、それから1社という形で記述しておりますが、調査結果については特徴的なことだけまとめました。各社にわたる調査報告書をいただいているわけですが、経営の内容に触れる部分もあるので、こういう特徴的なところだけを記述するというのを御確認いただきました。内容について調査に行かれた方で、よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長　　では、ここもこういう形でさせていただきます。(2)－2ですが、6ページ、市内事業者へのタクシーの需要調査です。ここについて、どうでしょうか。御意見ございますか。宿泊施設、病院、消防、交通事業者への聞き取りということでまとめております。よろしいですか。では地域に求められるデマンド型交通についての調査ですけれども、最初は2社というだけの記述にしていたけれども、1団体もありますので少し手直ししました。よろしいですか。五島委員。

○五島誠委員　　この書き方でもいいのかなと思ったのですけれども、この後よるくるの実証実験の調査も入ってくるのですが、その前にここに書いてあるように7月の聞き取りは、デマンド型交通についての調査の一環でさせていただいたように思っています。これ以上書くことがないのなら別にいいのですけれども、1団体のところを2団体にしてもらおうとか、そのあたりがわかるほうがいいのかと。

○宇江田豊彦委員長　　よるくるは団体ですからね。副委員長。

○前田智永副委員長　　聞き取りの段階でMa a S検討協議会の方からお話を伺っています。デマンド型交通についての調査という項目の中で、口和、比和地域の2社と、高野地域に加えてMa a S検討協議会にもお伺いしているので、項目に入れていただいたほうがいいのかという御意見です。

○宇江田豊彦委員長　　ではここへMa a S検討の正式名称で入れましょう。他にはありませんか。よろしいですか。聴き取りの部分はまた入っているのですよ。(3)－2のところ、Ma a S検討協議会の聞き取りは7月に行ったと入れているのです。だから(3)－1の出だしのところに入っているほうがいいのかという意味ですね。五島委員。

○五島誠委員　　よるくるはよるくるで調査をして、その前にMa a S検討協議会に話を聞いてデマンド交通の調査をしたので、少し意味合いが変わってくるのかなと思ったのです。

○宇江田豊彦委員長　　わかりました。(3)－1の冒頭の2社1団体へ、Ma a S検討協議会を加えて文章にします。この項についてはそれでよろしいですか。庄原地域における交通手段の確保、維持に向けたよるくるの実証実験について、調査報告ということでここにしています。これはこれで、1を受けてここはあるわけですから、これでいいのではないかと私自身は思っていますがどうですか。いいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長　　生活交通の乗車ということで、体験調査を実施した内容を軽く書いております。あまり体験調査というほどの調査にはならなかったのですが、一つの大きな柱として立てたので、中身は薄くても出していかなければならないと思い、こういう記述にしました。考察は皆さんから出た意見を列挙しております。終わりにですが、これは委員長に一任いただいていたので、私が勝手に書きました。最後だけ少し読んでみたいと思います。終わりに。本特別委員会は、地域生活交通の提供者・利用者・影響を受ける関係者からの聞き取りをもとに、現在の地域生活交通における課題と展望を明らかにするための調査活動を実施してきた。通学に特化したJR芸備線についての調査では、保護者の車による通学が60%を超えるなど驚きの状況であった。そのような状況を生み出しているのは、経済的要因と不便なダイヤ編成によるものと感じられた。タクシー事業者からの聞き取りを通して、当初予想したよりも深刻な事業継続の厳しさが伺えた。また、庄原地域におけるタクシーの夜間運行を取りやめた原因の一つとして、カスタマーハラスメントが挙げられることは、地域交通の問題にとどまらず人権尊重の課題である。夜間タクシーが休止されたことにより、時間の経過とともに飲

食業・宿泊業への影響が大きくなっていると考え。デマンド型交通においては、過疎化・高齢化が進む中、口和、高野地域においては利用者が増加をしており、将来においてはさらに拡大の傾向が見込まれる状況である。利用者の多くが高齢者であり、到着地から大きく離れたところへの移動は困難であり、待ち時間を過ごすところが必要になっている。利用者とのより丁寧なコンセンサスをとることが必要である。地域生活交通への乗車を本特別委員会として実施をしたが、日常的に議員自身が利用しておらず、実感のある地域生活交通の有り様を検討するには、日ごろより利用する中で、実態に即した上で行うべきと痛感した。時間的制約もあり、高速バス・路線バス・廃止代替等バス・地域生活バス・公共交通空白地有償運送、また一部の地域については調査を実施することができなかったが、今回の調査によって、地域生活交通の課題の一端をかいま見ることができたのではないかと思う。今回の調査報告は序章であり、入り口に立ったものと捉え、引き続いて調査を進め、頼りにされる地域生活交通再構築へ向けた一助となることを期待し報告とするという終わりの文章を書きました。こんなものかなと思ったのですが、どうですか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

- 宇江田豊彦委員長　これで最終日に報告をさせていただきます。先ほどいただいた意見、手直しをする部分を直して、終報告書にしていきたいと思います。よろしく申し上げます。皆さん長い間御苦勞さまでした。ありがとうございました。

午後2時37分　散　会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

地域生活交通に係る調査特別委員会

委員長